



会報 No.162 令和8年3月号

変化の時代を支える八王子の保育

八王子市子ども家庭部長 古川 由美子

早春の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より子どもの育ちを第一に、温かく丁寧な保育を実践してくださっている保育士をはじめ、園関係者の皆様のご尽力に対し、深く敬意と感謝を申し上げます。

近年、少子化の加速や家庭の就労状況の多様化に伴い、保育を取り巻く環境は大きな転換点を迎えています。定型的な保育需要だけでなく、短時間利用、柔軟な預かり、発達支援の充実など、多様化するニーズへの対応が求められ、園現場の皆様には引き続き大きなお力添えをいただいております。国においては、「量」から「質」への転換が明確に打ち出され、地域における保育機能の再構築が進められています。この流れの中で、令和8年度は子育て支援にとって大きな節目となる制度が本格実施を迎えます。

まずは、国の新たな子育て支援施策である「こども誰でも通園制度」が本格実施の年を迎えます。この制度は、保護者の就労要件を問わず、良質な成育環境を確保し、すべての子どもの育ちを応援するとともに、多様なライフスタイルに応じた支援を拡充するものです。単なる預かりに留まらず、子どもが早い段階から集団生活で豊かな経験を得る機会となり、園の専門職による支援を通じて家庭の孤立化を防ぎ、地域で子育てを支える基盤となります。本市でも、関係園の皆様と連携しながら、利用枠の確保や事務負担の軽減策の検討等、円滑な実施に向けた準備を進めているところです。今後も制度趣旨に沿った運用と、現場での負担とならない仕組みづくりの両立を大切にまいります。

また、本市では令和9年度より「5歳児健診」の本格実施を目指しています。5歳前後は、社会性・言語の理解・行動面など、発達特性がより明確に表れやすい重要な時期です。今回、市として導入する5歳児健診は、発達特性の早期把握と、就学に向けた切れ目ない支援体系の構築を目的としています。令和8年度は、市内全域での本格実施に先立ち、アンケートを用いたスクリーニングや、保育士・保護者双方の視点を反映した評価、専門職による相談支援など、必要な体制の具体化を進めてまいります。園現場の皆様には、ご協力をお願いする場面も多いかと思いますが、子どもの健やかな成長のため、引き続きご理解とご協力を賜れば幸いです。

令和8年度は、子ども・家庭支援において“誰ひとり取り残さない体制”を強化する大きな節目の年となります。多様化する家庭の状況に対応しながら、保育・教育・福祉の連携を一層深め、地域全体で子どもを支えるネットワークづくりを進めることが求められています。本市といたしましても、現場での取組を最大限後押しできるよう、政策の充実と環境整備に努めてまいります。

結びに、八王子市私立保育協会の皆様のご尽力に改めて深く感謝申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝と園の発展を心より祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

全 体 会 報 告

令和 8 年 1 月 27 日

1月27日（火）、全体会を対面で開催しました。今回は初めての試みで、お弁当での会食→全体会→園長研修という流れで行いました。須崎副会長の開会のご挨拶、山下会長のご挨拶により開会、はじめに昨年の叙勲で瑞宝双光章を受けられた社会福祉法人めじろ会めじろ保育園・柘澤章次先生、東京都功労者表彰を受けられた敬愛学園・塚本定代先生をお祝いしました。両先生からのスピーチでは「年々変わっていく中でできるかぎりのことはやっていきたい（柘澤先生）、みなさんも一人ひとり素晴らしい力を持っているので『よし！やってみよう』という気持ちを持つことが大切（塚本先生）」という温かで力強いお言葉をいただき、その後花束贈呈を行いました。（柘澤先生・塚本先生、誠におめでとうございます）。

全体会の概要を以下ご報告します。

各部会報告

総務部（滝澤先生）

総務部では全体会、総会の運営を行っています。今回の全体会は、お弁当・お昼開催と新しい形の挑戦です。ご意見がありましたら、よろしく願います。

広報部（筒井）

例年では、新年会の際に配布していたところですが、この全体会報告を掲載する方向で計画しており、現在、制作中となっています。執筆をお願いしている先生方、引き続きよろしく願います。

研修部（林先生）

前回の全体会以降の報告です。11月12日（水）は第2回保育給食研究会食育研修会「『教えて！みんなの園の食育活動～知って得するワクワク時間～』」。発表者は敬愛高倉保育園、さつき保育園、フェロー第二保育園さん。素敵な発表ありがとうございました。研修参加者は64名。グループワークもあり有意義な研修となりました。その他、保育フォーラムの第2回が11月19日（水）に開催、参加者42名。第3回は2月17日（火）に予定、研修委員がグループごとのファシリテーターを務めます。保育従事者研修は第1回が11月12日（水）「AIに負けない力～遊びを通して非認知能力を育む（内田信子先生）」、第2回が12月8日（月）「子どもの遊びが広がるカリキュラムを考える（師岡明先生、パネラーとして当会から島本先生・折井先生、長沼幼稚園・玉生先生が登壇）」、第3回は「子どもの声が広がるインクルーシブ保育（浜谷直人先生）」でした。参加者は各回70人、127人、102人でした。たくさんの研修ご参加、協力ありがとうございました。より良い研修を目指すので、園長先生方よろしく願います。

保育経営学習委員会（相見先生）

前回の全体会以降、10月30日（木）、11月28日（金）、12月30日（火）に定例会を行い、サービス推進費、AIの活用、園のしおり等について話し合

ました。また1月19日（月）、各地区青年会の交流会に参加しました。保育経営学習委員会は現在参加者募集中。来年度の総会ではまたポスターを配布できるように準備しています。

本部（中林先生）

2点あります。1つは、予算要望。今期から本部担当となりました。12月17日（水）、協会三役にて市長に予算要望を提出、八王子市における独自の配置基準、保育補助加算の上限引き上げ、宿舍借り上げ制度の継続、指定管理園に対する公定価格をふまえた予算増、その他ICTの活用、猛暑対策としての夏休みの小学校活用等を要求しました。続いてキャリアアップ研修。現在第2期のオンデマンド研修が進んでいます。修了証は施設に送るので本人に確認をするよう声掛けをお願いします。修了証の原本は必ず受講者本人にお渡ししてください。

会計（斎藤先生）

前回の全体会以降、予算通り進行しています。毎月月初に会計処理をし、その後の役員会で確認してすすめています。組織改編があったので、各部・各委員会の担当範囲がわかりやすくなるよう計算書類の「わかりやすさ」に努めているので、今後ともよろしく願います。

つづいて各団体報告を行いました。

各団体報告

東京都民間保育協会（中林先生）

団体報告・各種研修のご案内については毎月お送りしている資料をご確認ください。また2月11日（水）に保育者養成校との交流会を行います。2月18日（水）は市区町村代表者会議です。毎年の東京保育園フェア、すでに募集しています。2月に抽選。フォト展は来年度にむけて会場を検討中。日時は未定です。

東社協保育部会（折井先生）

東社協は先週、地区委員総会でした。問題なく予算承認されました。来年度、私立地区委員会主催の研修があります。改めて案内しますが、矢藤先生という養成校のトップの先生（*矢藤誠慈郎先生・和洋女子大学）をお招きしているので、時間があれば集まってください。以上です。

東京都保育推進委員会（宮崎先生）

東保推は、1月25日（日）に伊藤しょうこう都議の新春の集いに参加、2月4日（水）、令和8年度都保育関係予算及び施策に対する研修会、都の課長から説明を受けます（申し込みはもう終了しています）。

保幼小子育て連絡協議会（島本先生）

保幼小の連携について話をしてきました。年に会議は3回で最後は2月13日（金）、すくてくシートの報告がありました。ちなみにみなさん、どのくらい出しているのでしょうか。市の発表では全体の2割近い17.9%が出ているということです。かなりの量が学校に出されています。保育としては、幼児教育のすばらしさ、養護的な視点を持ちつつ子どもを見守るということ伝えていき、そうして育った子どもが学校に行った時に安心感を持って過ごせるように、子どものための子どもにあった学校にしていこうという意味で、この協働を活用していってほしいと思います。

つづいて八王子市より行政説明を受けました。

行政説明

子どもの教育・保育推進課・山田課長・村上主査

○保幼小架け橋カリキュラムについて

令和8年度に向けての仮作成を行った。カリキュラムを作成したすべての施設が、2月27日（金）までに幼児教育・保育センターへメールにて提出を（小学校接続加算の要件にもなっています）。

○保・幼・小のブロック別一覧について

手元資料の形で再編しています。こども家庭センターが3拠点になったことを受け、大横・東浅川（第1・第2）・南大沢（第1・第2）ブロックに編成し、5ブロックでの運営となります（校長会にも今後周知していく予定です）。

○障害児等保育助成費の電子申請について

4・5・6月は従来の紙面申請ですが、その後は電子化を導入します（近くなったら案内します）。

公立保育所運営担当・井上主査

○公私連携型保育所の法人決定について

静教保育園は社会福祉法人太和会、多賀保育園は社会福祉法人愛和会に決定しました。

指定管理から公私連携に移行（令和8年4月1日から18年3月31までの10年間）します。

○指定管理園の決定について

長房西保育園は社会福祉法人相友会、石川保育園は社会福祉法人多摩養育園が（令和8年4月1日から13年3月31までの5年間）指定管理者に決定しました。

施設整備担当・櫻田主査

○令和7年11月に一部改定した「八王子市 乳幼児期の教育・保育に関する方針」について

認定こども園への移行については社福審への諮問を経て、こども園への移行は一時的に休止という結論になりました。ただし、子ども若者育成支援計画にあわせ5年ごとに方向性の確認を行います。一時休止となりますが、理解をお願いします。

こども家庭センター・吉本館長

○5歳児健診について

令和7年4月から各部連携して検討してきた5歳児健診のパイロット事業を、令和8年度に行います。5歳前後、社会性や言語理解が認知される重要な時期に健診を行い、必要な場合は専門機関への相談など改善や適応を進めていくのが目的です。

園長研修「保育者の声を聴くマネジメント『保育者のやりがいを高めるために施設長ができること』」・東京立正短期大学・鈴木 健史 先生

続いて園長研修として上記の題で東京立正短期大学・鈴木健史先生のお話を伺いました。鈴木先生は保育現場での長い経験を活かし現在は大学で保育者養成指導、ファシリテーション、コンサルティングを中心に活動していらっしゃる先生です。「保育の起点は子ども理解、保護者支援の起点は保護者理解、職員支援は職員理解から」「保育者が経験をとおして身に着けた力はいわば暗黙知。それを意識化・言語化できればその人以外の人も同じ方法をとることができる」「期待と機会は同じ（保育の質、組織の向上を期待するなら、成長の機会（チャンス）を保障することが重要）」など、やさしく的確な言葉で、保育者のやりがいを高めながら良好な保育チームをつくっていくポイントをお話してくださいました。適宜グループワークも交えていただき、参加者全員が気づきや考えを深めながら学ぶ有意義な時間となりました。

園長研修の後、折井副会長からご挨拶をいただき、閉会となりました。

シリーズ 私の保育園

クラージュ保育園

医療法人社団CSDS理事長 深沢 宗主
子どもと大人が共に育ちあう場をめざして

クラージュ保育園は、八王子市七国にある、0歳から2歳までの子どもを対象とした小規模保育園です。園名の「クラージュ (courage)」には「勇気」という意味があります。子どもたちが自分らしく生きる勇気を育み、保護者が子育てに向き合う勇気を持ち、職員もまた学び続ける勇気を大切にできる場所でありたいという願いを込めています。一人ひとりに丁寧に寄り添う保育を行い、子どもが安心して自分らしく過ごし、主体的に育っていくことを何よりも大切にしています。

本園では、子どもの主体性を育むために、選択理論心理学に基づく関わりを日々の保育の中で実践しています。人は外側からコントロールされて動く存在ではなく、自らの内側の欲求に基づいて行動を選択しているという理解に立ち、指示や評価によって行動を促すのではなく、安心できる関係の中で子ども自身が感じ、考え、選び取る経験を大切にしています。同時に、本園は保護者支援も大切にしています。保護者が安心して思いを語り、つながりを感じられる場をつくることは、子どもの安定した育ちにも深く関わります。家庭と園が同じ方向を見つめながら成長を支え合える関係づくりを心がけています。

その取り組みの一つが、月に数日開く夕食会です。忙しい中でも、保護者と子どもたちがゆっくりと食卓を囲み、親子で穏やかな時間を過ごせるよう願って始めたもので、保護者同士が語り合い、子育ての悩みや喜びを分かち合う大切な機会にもなっています。この夕食会には卒園した親子も参加しており、園で育まれたつながりが継続していること



を大変うれしく感じています。さらに本園では、卒園児を対象としたお泊り会を実施し、仲間と共にごさ特別な体験を通して自信や安心感を育む機会としています。乳幼児期の関わりを一過性のものとせず、成長の歩みに寄り添い続けることこそが、地域における保育園の新たな役割であると考えています。



理事長である深沢は、選択理論心理士の資格を有し、この理論を基盤とした保育実践および職員マネジメントに取り組んできました。こうした実践は外部からも評価され、岐阜市から依頼を受け、市内の公立保育園の園長を対象とした不適切保育防止に関する研修や、保育士のメンタルヘルスに関する研修を担当しています。さらに、一般企業や官公庁、学校、大学など多様な分野から研修の依頼をいただくとともに、各地の保育園においても職員研修や組織づくりに関する研修を行っています。保育の質を高めるためには、子どもへの関わりだけでなく、保育者自身が安心して働き、学び続けられる環境が不可欠であると考えています。



互いを尊重し合い、対話を大切にする職員集団であることが、子どもにとって最も安定した環境を生み出します。学び続ける姿勢を組織全体で共有しながら、専門性の向上と働きやすい環境づくりの両立に努めています。子どもを中心に、大人もまた学び、支え合いながら共に成長していくこと。そのような温かな循環を、八王子市七国のこの場所から丁寧に育んでいきたいと願っています。クラージュ保育園は、これからも地域に根ざし、子どもたちの健やかな育ちを静かに支え続けてまいります。

編集後記

はじめにお詫びを申し上げます。私のスケジュール把握の不手際で、年明けに予定していた1月号が出せず、少し間があいての年度末号となりました。大変申し訳ありませんでした。ご協力いただいた先生方、本会報を手にとっていただいている先生方みなさま、1年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。(筒井正人/せいがの森こども園)